

中央区自治協議会 第4部会 バス利用促進・環境改善プロジェクト

■第4部会の取り組み

「バスを中心とした公共交通」をテーマに、住民・利用者の視点から公共交通の課題や解決策を検討

■今後バスをより多くの人から利用してもらう上での課題

より重要な課題として下記2つに整理

課題①：「乗ったことがない」「よくわからない」ことによる心理的バリア

課題②：バスよりも車の方が便利（と感じること）

■課題解決に向けた方策を検討

それぞれの課題に対する「PR強化」と「利便性向上」に係る方策が必要

(1) 短期的施策

① PR強化

◆中央区自治協議会 第4部会で試行的に実施

- ▶ 「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシの作成（別紙）
「時刻・運賃検索システム」認知度向上のため、PRチラシを作成し、配布する
- ▶ 転入者への案内強化
区役所窓口で転入者に対し交付している「転入セット」に上記チラシを封入する
- ▶ 人が集まる場所でPR拡大
公共施設、学校、病院など広域から多数の人が集まる場所で、公共交通案内を充実させ、利用を促す

◆新潟交通へ提案

▶ バス停分散地区に乗り場マップを貼付

万代シティ、古町などのバス停分散地区において、各バス停に乗り場及び現在地を明確にするマップを設置する

② 利便性向上

◆新潟交通へ提案

▶ コンビニートインコーナーをバス待合スペースに

バス停から至近にあり、イトインコーナーがあるコンビニ店舗と連携し、バス待合用にイトインスペースを提供してもらう

(2) 中期的施策

① PR強化

～市民の意識改革～

◆行政へ提案

▶ 地域・学校への出前講座

公共交通の優位性と必要性、公共交通中心のまちづくりをPR
市政さわやかトーク宅配便の利用促進

◆警察へ提案

▶ 免許返納者への案内強化

免許返納窓口におけるチラシ配布などのPR

② 利便性向上

～事業者間の連携～

◆新潟交通・JRへ提案

▶ 駅の公共交通案内（乗り場案内）の充実

▶ JRとバスが連携した商品のラインナップ

例) 共通1日（24時間）乗車券

～まちづくりとの連携～

◆新潟交通へ提案

▶ 「お帰りバス券」の提供店舗拡大

▶ 公共交通サポーター制度の発足と拡大

利用者、地域、交通事業者、行政が連携して「みんなで支える公共交通」を実現させ、元気なまちを実現させる

～利用環境改善～

◆新潟交通と行政へ提案

▶ 空き店舗、空き家を活用したバス待ちスペースや自転車置き場の設置

▶ バス停や乗り換えバス拠点の整備

▶ 拠点バス停に「案内係員」の設置

▶ 運行情報、遅延情報の自動メール配信サービスやアプリの運用

▶ 新潟駅の高架化を踏まえた、路線及び乗り換え拠点の検討

～利用者負担の軽減で回遊性向上～

◆新潟交通へ提案

▶ バス1日（24時間）乗車券の設定

▶ フリー定期券の拡充

例) シニア向け「均一区間フリー定期券」

JR 金沢駅前の公共交通案内版

主要行先別の表示となっている。

色、イラストを多用し、文字も大きく見やすい。

